

Vertical text on the cover, likely the title or author's name, written in a traditional Chinese style. The characters are faint and difficult to decipher due to the wear and tear on the paper.

K13
Mo



文部省著作

尋常小學讀本
三



發行所 日本書籍株式會社

モクロク。

ダイ一	タンポポ。	一
ダイ二	サクラ。	三
ダイ三	ナノハナ。	五
ダイ四	ツバメ。	七
ダイ五	ツバメトスズメ。	十
ダイ六	アメ。	十四
ダイ七	コガハ。	十六
ダイ八	タケノコ。	二十
ダイ九	カシノキトタケ。	二十三
ダイ十	うめのみ。	二十八

ダイ十一	ホタル。	三十
ダイ十二	せんたく。	三十三
ダイ十三	シホー。	三十四
ダイ十四	日とにじ。	三十七
ダイ十五	せみ。	四十
ダイ十六	あきがほ。	四十四
ダイ十七	ウミ。	四十五
ダイ十八	からすとはまぐり。	四十九
ダイ十九	ブドー。	五十一
ダイ二十	とけい。	五十四

ダイー タンポポ。

タンポポ ノ ハナ ハ、 ノハラナド

サキマス。

タンポポ ノ ハナ ハ、

タイテイ、 キイロ デス。

タンポポ ノ ハナ ハ

キク ノ ハナ ニ テキマス。

アル ヒ、 オチヨ ガ、 ウンドーバ デ、 タン



タンポポ



ポポノハナヲミツケマシタ。ソシテ、

ソレヲトツテ、センセイニミセマシタ。」

センセイハ、ソギノヨーニ、イヒマシタ。

「アー。タイソー、キレイデスネ。コノハ

ナハ、ヒルノアヒダハ、コノヨー

ニ、キレイニ、サイテキマスガ、ヨルニ

ナルト、ツボンデシマヒマス。ソシテ、ツ

ギノヒニナルト、マタ、コノヨ

へり、
か、や、



「二、サキマス。」

へ。り。か。や。

へりかや。

ダイニサクラ。

サクラノハナガ、キレ

イニ、サイテキマス。

コドモガ、サクラノキ

ノシタデ、アソンデキマ

ス。

カゼ ガ フイテ、ハナビラ ガ、チラチラト、
チツテキマス。

サクラ ノ ハナ ハ、タイテイ、一ツ ノ
ハナ ニ、ハナビラ ガ、五ツヅツ、ツイテキ
マス。

三十サン ハ ソレ ヲ シツテキマス カ。

ク。シ。サ。キ。ラ。チ。

く、し、
き、あ、
ら、ち、



く。し。さ。き。ら。ち。
き。き。くら。

ダイ三
ハナ。

コレハナノハナデス。

キイロイチョーチヨガナ

ノハナニトマツテキマス。

オチヨトオタケトガ、

シヨーカーウタツテ、アゾン

デキマス。

「チヨ―チヨ。チヨ―チヨ。」

十ノハナニトマレ。

十ノハナニアイタラ、

サクラニトマレ。」

十ノハナハ、一ツノハナニ、ハナ

ビラガ、四ツ、アリマス。ツシテ、ツノ四

ツノハナビラガ、十ノジノヨ―

たはの、
なほん

ニ、ツイテキマス。

十ノハナハ、タイテイノタンポポ

ノハナノヨーニ、キイロデス。

ノ。ン。ハ。ホ。タ。ナ。

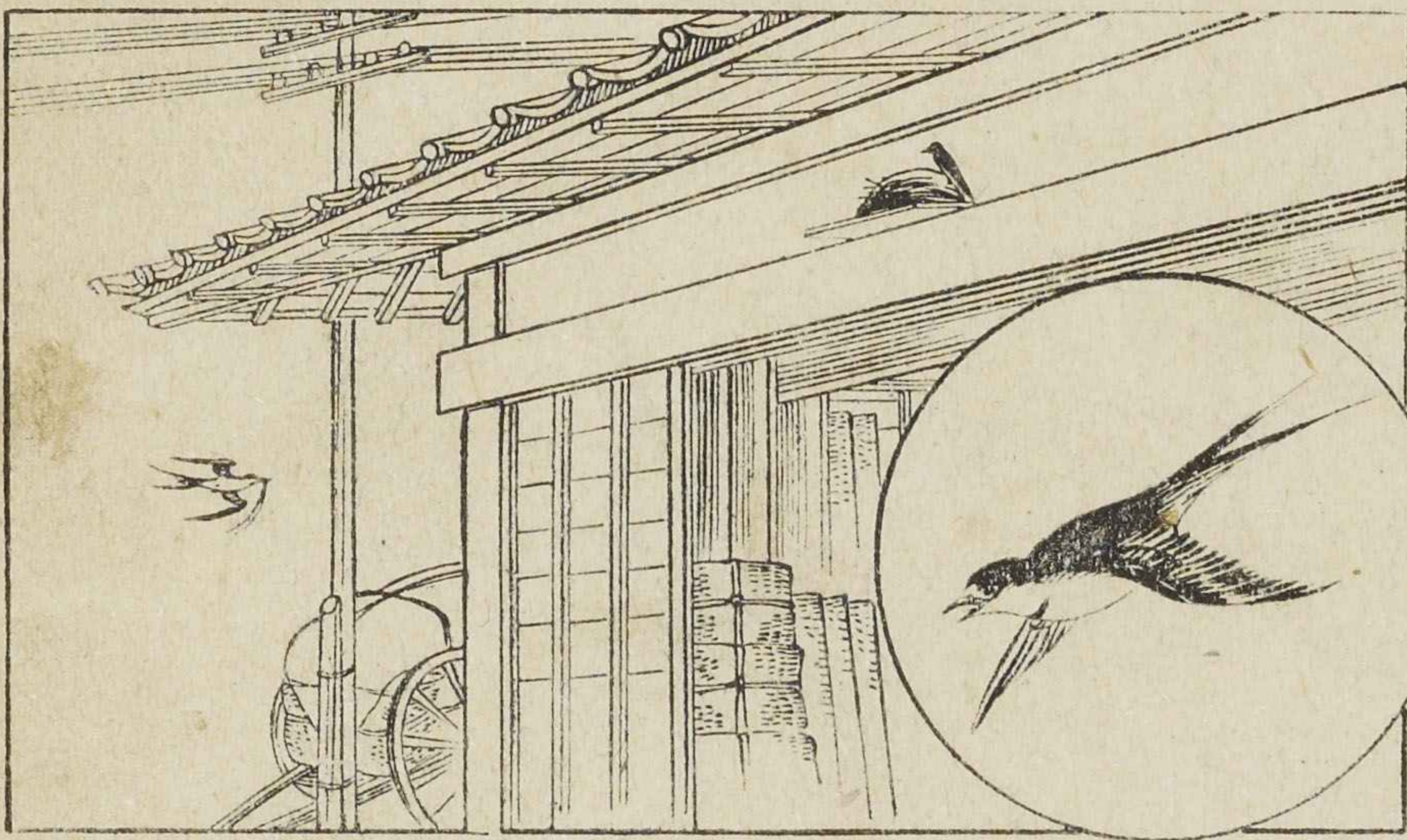
の。ん。は。ほ。た。な。

な。の。は。な。は。ち。たんぽぽ。

ダイ四ツバメ。

トリガ、一ハ、ノキデ、ハタライテキマス。

カフ
(コー)



オナジ ヨーナ トリ ガ、ムカフ カラ、ト
ンデキマス。マー。ハヤク、トンデクル デハ

アリマセン カ。

コノ トリ ハ ツバメ デス。

ツバメ ノ ヲ ハ、ナガク

テ、ニツ ミ、ワレテキマス。

クチバシ ハ ミジカク テ、

クチ ハ、フカク、サケテキマ

ス。ソレデスカラ、トシデキル トキ ニ ム
シラ トル コト ガ デキマス。

ツバメ ハ ドロ ヤ ワラナド デ、イヘ
ノ キナド ニ、ス ラ コシラヘマス。

コノ トリ ハ、ヨク、ヒト ニ ナレマス。

ヒト モ、マタ、ツバメ ラ カハイガリマス。

コノ トリ ハ、アタタカナ トコロ ガ ス

キ デス カラ、サムク ナル ト、アタタカ

あ、ろ、と、
ぬ、め、つ、

ナ トコロニ、 イツテシマヒマス。 ソシテ、
アタタカニ ナル ト、 マタ、 カヘツテキマス。

ト。 ツ。 ロ。 メ。 ア。 ス。

と。 つ。 ろ。 め。 あ。 ぬ。

とり。 つばめ。 くちばし。 どり。

ダイ五 ツバメ ト スズメ。

アル イヘ ノ ノキニ、 ツバメ ノ ス

ガ アリマシタ。 ソノ スヲ、 アル オーチャ

クナ スズメ ガ、ミツケマシタ。ソシテ、ジ
ブン ノ ス ニ シテ、スマツテキマシタ。

ソノウチニ、ツバメ ガ カヘツテキマシタ。

ソシテ、ジブン ノ ス ヲ ミマス ト、ソ

コ ニ、ミタ ココト モモ ナイ スズメ ガ

ハイツテキマシタ。

ソコデ、ツバメ ハ、スズメ ニ、

「コレ ハ ワタクシ ノ ス デス。ノイテ

クダサイ。」

ト イヒマシタ。

シカシ、スズメハ、

「イーエ。コレハワタクシノスデス。」

ト イツテ、キキマセンデシタ。

ツバメハ、タイソー、オコツテ、ナカマヲ、

オホゼイ、ヨンデキマシタ。ソシテ、ミンナ

デ、ドロヲクハヘテキテ、ソノスノ

す、ひ、そ、ま、
い、て、よ、

クチ ヲ フサイデシマヒマシタ。

スズメ ハ、ス ノ ナカ デ、タイソー、サ

ワギマシタ。シカシ、ドウシテモ、デル コト

ガ デキマセンデシタ。

ス。イ。ヒ。テ。ソ。ヨ。マ。

す。い。ひ。て。え。よ。ま。

すずめ。

つばめ が 「のいてください。」と いひ

ました。

ダイ六 アメ。

ケフ
(キヨシ)
ノフ
(ノフ)

ケフ モ、 アサ カラ、 アメ ガ フツテキマ

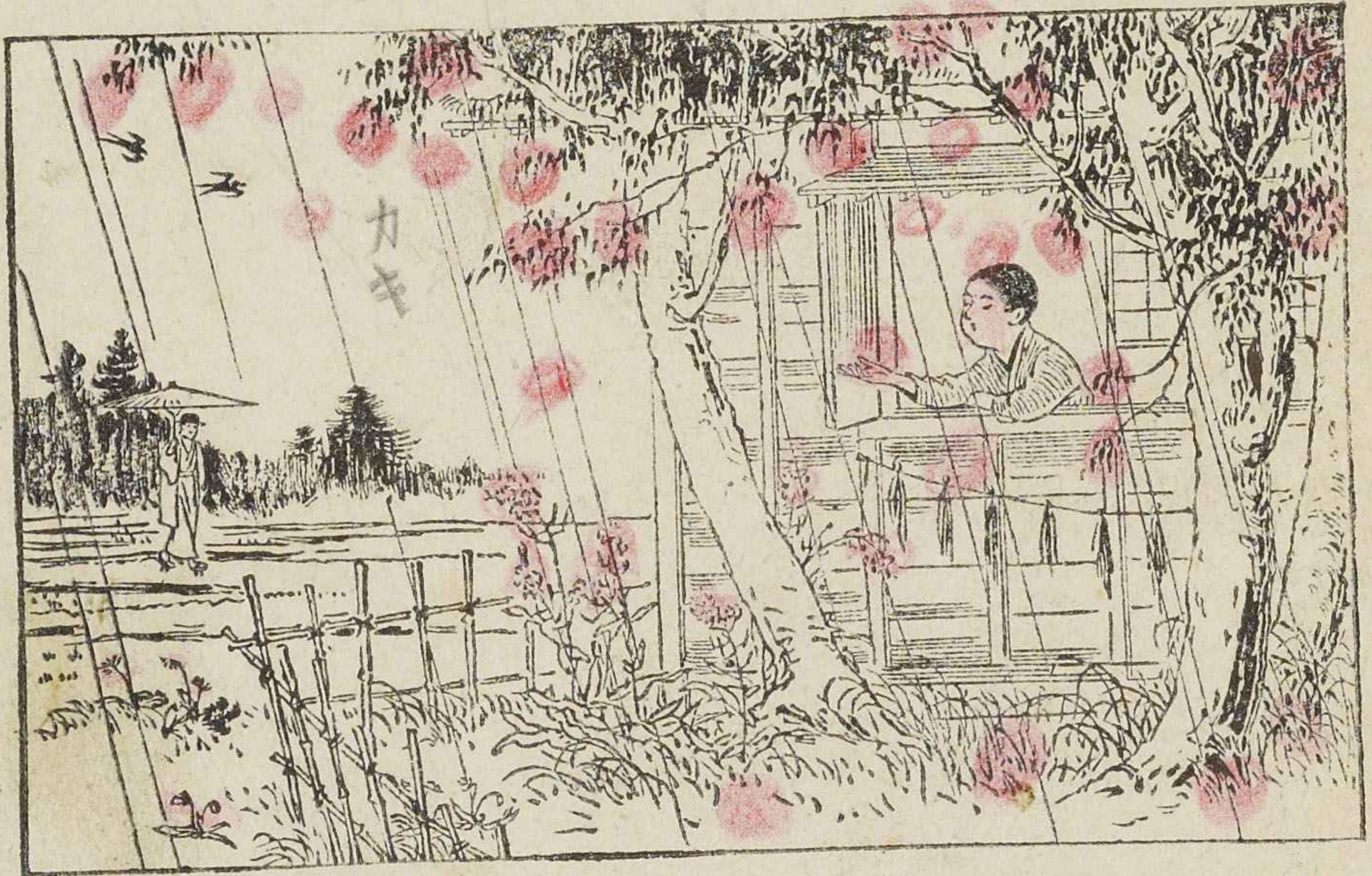
ス。 キノフ モ、 ラトトヒ モ、 フリマシタ。

アマダレ ガ、 ヤネ カラ、 ポチポチト、 オチ

テキマス。

ジロー ハ、 イマ、 マド ラ アケテ、 ソト

ヲ ミテキマス。



カサヲサシテ、キマス。アレハジロー
 ノオトウサンデス。

クサモ、キモ、ハナモ、
 ミンナ、アメニ、ヌレテキ
 マス。
 ツバメハ、アメニ、ヌレテ
 モ、ソトヲトシデキマス。
 ヒトガ、ムカフカラ、カラ

わね、
わね、

ワ。ネ。レ。ル。牛。

わねれるわ。

あめ。わらやね。あき。ひる。よる。

はながぬれてゐます。

ダイセ コガハ。

ワタクシノイヘノマヘニハ、コガハ

ガアリマス。

ソノコガハノキシニハ、クサガハ

エテキマス。ヤナギノキ
 モ、一ポソ、アリマス。
 カハニハ、キレイナミヅ
 ガナガレテキマス。ソシテ、
 メダカガ、タクサン、ウイ
 テキマス。
 ワタクシハ、メダカヲ
 コトガスキデス。



イヘノマヘヲバ

ナガレルコガハ。

コガハ。ナガレテ、

ドコヘ、イク。」

メダカウカセテ、

タノソバトホリ、

ナカマアツメテ、

オホカハへ。」

こ、に、
お、う、
を、ふ、に、

コ。ニ。ウ。フ。オ。ヲ。

こ。に。う。ふ。お。を。

こがは。おほかは。

いへのまへに、こがはが
ありま

す。

めだかがういてゐます。

めだかをすくふことが
すきで

す。

ダイハ タケノコ。

タケ ガ、タクサン、ハエテキル トコロ ラ

タケヤブ ト イヒマス。

コタロー ト ブンキチ ト ガ、

タケヤブ ノ ソバ デ、ハナシ

ヲ シテキマス。

コタロー「ブンキチサン。コノ タ

ケノコ ハ、タイソー、ノビマ



シタネ。タケノコト、セイクラベラシ
テミマセウ。」

ブンキチ「アー。キミハ、タケノコト、チョー
ド、オナジタカサデス。」

コタロー「ブンキチサシ。キミハ、ニスンホド、
ヒクイョーデス。」

ブンキチ「ソシナラ、キミハ、ボクヨリ、ニス
ンホド、セイガタカイノデスネ。」

コタロー「ブンキチサン。タケノコ　ハ、ハヤク、
ノビマス　カラ、イマニ、ボクラ　ヨリ、ズツ
ト、タカク　ナリマセウ。」

ケ。セ。ミ。エ。急。
三。エ。エ。

け。せ。み。え。急。

たけのこと、せいくらべを　してみま
せう。

たけ　が　はえてゐます。

急、み、け、
え、せ、

まつ を うゑてゐます。

ダイ九 カシノキトタケ。

アル ヒ、カシノキガ、タケニ、イヒ
マシタ。

「タケサン。キミハセイハタカイガ、
カラダガホソクテ、ナカガカラ
デ、カゼガフクト、ドツチヘモ、マ
ガルネ。

ボクナド ハ、カラダ ガ ジョーブ デ、
カタク テ、ツヨク テ、カゼ ガ フイテ
モ、ビクトモ セン。」

ト イツテ、ジマン ヲ シマシタ。

タケ ハ、ダマツテ、キイテキマシタ。

ソノ ヒ ノ ^{ユフ} ユフガタ、カゼ ガ、タイソー、
(ユフ)

ツヨク、フキダシマシタ。タケ ハ、オトナシ

ク、カゼ ノ フク トホリ ニ ナツテキマ

むも、
つゆ、

シタ。カシノキハ、ゴージョーニ、カゼ
ニムイテ、イバツテキマシタ。
スルト、カゼガオコツテ、ヒドイオトヲ
サセテ、トートー、カシノキヲツテ
シマヒマシタ。

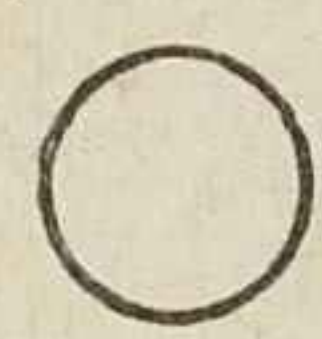
モ。ユ。ム。ツ。

も。ゆ。む。つ。

どつちへも、まがるね。

ゆふがた、かぜがふきだしました。

かぜにむいて、いばってゐました。



あいうえお

かきくけこ

さしすせそ

たちつてと

がぎぐげご

ざじずぜぞ

だちづでど

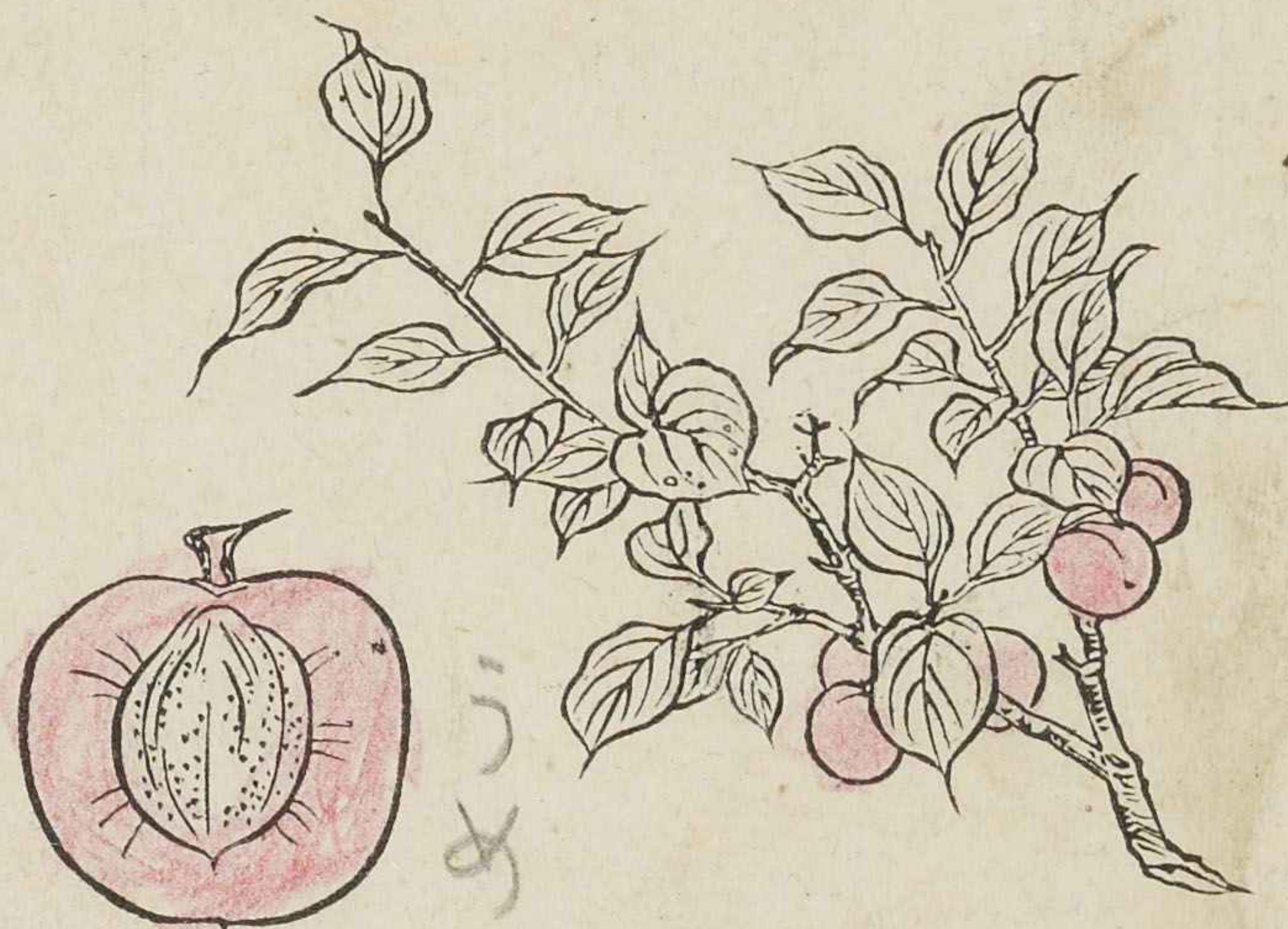
わ お う 急 を	ら り る れ ろ	や い ゆ え よ	ま み む め も	は ひ ふ へ ほ	な に ぬ ね の
-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

ば び ぶ べ ぼ	ぱ ぴ ぷ ぺ ぽ
-----------------------	-----------------------

知

入

だい十 うめのみ。



これは うめのみ です。

うめのみ は、はじめに

は、いろが あをくて、あと

には、きいろく なります。

あをい うちには、あぢが

すくて、きいろく なる と、すこし、あまく

なります。

みなさん。あをい　うちには、うめののみ
を　たべて　はいけません。たべると、びよ
ーきに　なります。

うめの　みの　なか　には、かたい　たね
が　あります。その　たね　を、つちの　な
か　に、うづめておくと、うめの　の　きが
はえてきます。

うめの　の　みを　しほ　につけて、そして、

しそのはをいれると、いろがあ
かくなります。それをほすと、みなさ
んのたべるうめぼしができます。

ダイ十一 ホタル。

「ホー、ホー、ホタル コイ。

アツチ ノ ミヅ ハ ニガイゾ。

コツチ ノ ミヅ ハ アマイゾ。

ホー、ホー、ホタル コイ。」

コドモ ガ、 ユフガタ、 カウイフ ウタ ヲ

ウタツテ、 オモテ ヲ トホリマシタ。

オハナ ハ、 オカアサン ト、 オモテ ニ デ

テミマシタ。

スルト、 ホタル ガ、 一ピキ、 トンデキマシタ。

ソノウチニ、 ニヒキ、 三ビキ ト、 ダンダン、

ヨツテキマシタ。 ソシテ、 クライ ナカ ヲ

ヒカツタリ、 キエタリ シテ、 トンデキマシタ。

オハナ「オカアサン。キレイ
デゴザイマス
ネ。チヨード、オホシサマノ
ヨーデゴザ
イマスネ。

ドコガ、アンナニ、ヒカル
ノデゴザ
イマスカ。」

オカアサン「オシリニ、シロイ
トコロガアツ
テ、ソコガヒカル
ノデス。トツテ、
ミセテアゲマセウ。」

オカアサン ハ、一ピキ、トツテ、

オハナ ニ ヤリマシタ。

オハナ ハ、ヨロコンデ、メヅラ

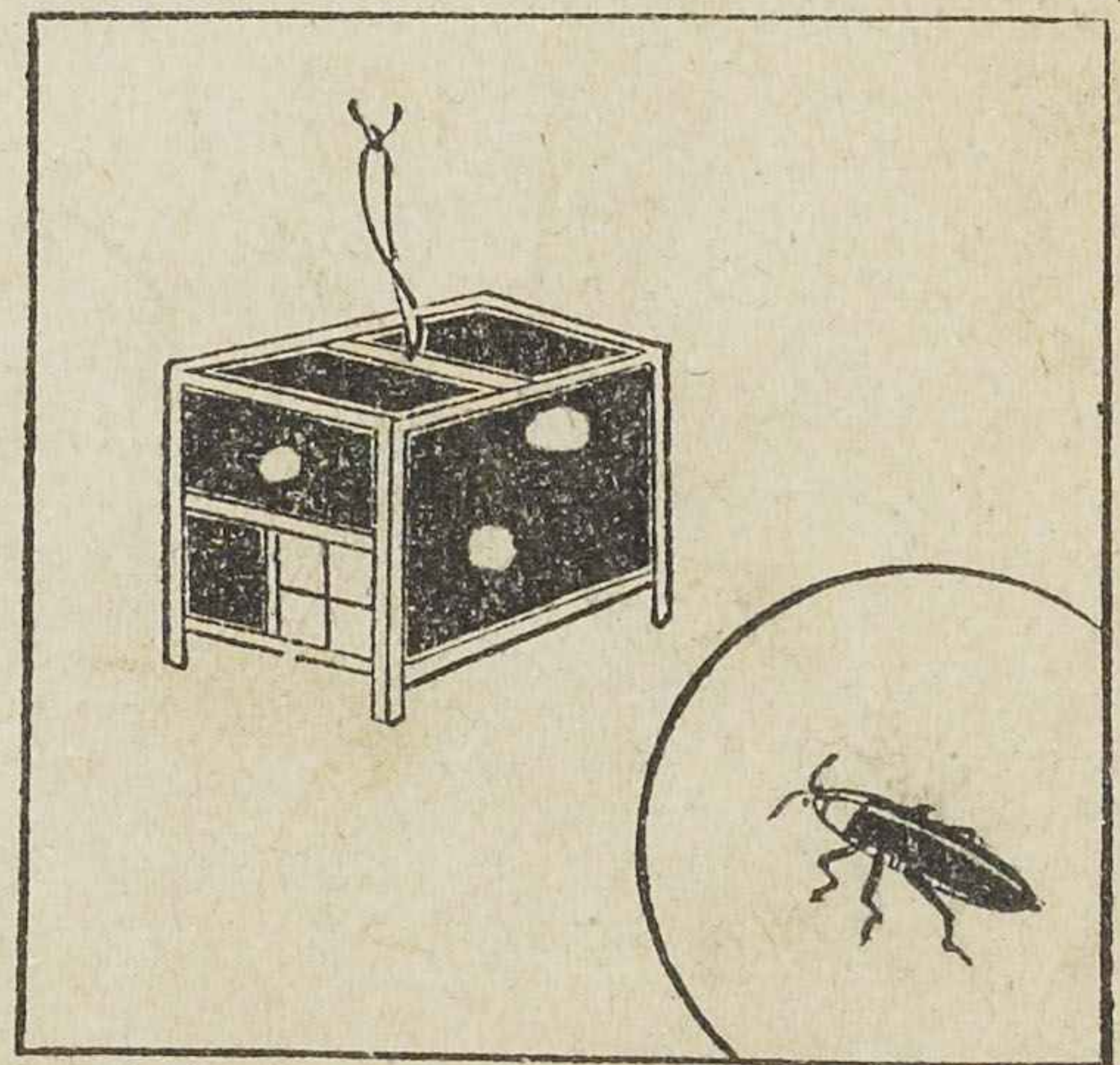
シサウニ、ソレヲ ミマシタ。

だい十二 せんたく。

けふ は、あをぞら、よい てんき。

まへの うち ても、

となり ても、



みづ くむ。あらふ。

かける。ほす。」

あらって、かけた、さをだけの

しま や かすりの

ほしものは

たろー、じろーの

ひとへもの。」

ダイ十三 シホー。

日

日ガ、アサ、ハヤク、デル ヨーニナリマ

シタ。

コノコハ、ケサモ、

ハヤク、オキマシタ。

イマ、日ニムイテ、テ

ヲヒロゲテ、タツテキマ

ス。



コノコノカゲハ、ソノウシロニ、

子

ミエテキマス。

コノ子ノマヘノホーヲヒガシ

トイッテ、ウシロノホーヲニシト

イヒマス。

マタ、ミギノテノホーヲ三十三

トイッテ、ヒダリノテノホーヲ

キタトイヒマス。

ヒガシ、ニシ、三十三、キタノ四ツヲ

アハセテ、シホー ト イヒマス。

日 ノ デル ホー ハ ヒガシ デ、日 ノ

ハイル ホー ハ ニシ デス。

ミナサン。コノ 子 ガ、モシ、ミギ ニ ム

イタラ、マヘ ハ ドノ ホー ニ ナリマス

カ。マタ、ウシロ ハ ドノ ホー ニ ナリ

マス カ。

だい十四 日 と にじ。

にじは、日とむきあって、でるもの
です。あきは、にしのほーに、でて、
ゆふがたは、ひがしのほーに、でます。
あるゆふがた、あめがはれて、日が、
くものあひだから、てりだしました。す
ると、ひがしのそらに、大きなにじ
が、でました。

大

ひとは、これをみて、みんな、「きれい

だ。きれいだ。」と、いって、ほめました。

にじは「じぶんは、日とむきあって、
てるもので、日がなくて、は、でる
ことが、できんものだ。」といふこと
をしりませんでした。

そこで、にじは、つぎのよーに、いひま
した。

「日は、ただ、てるだけだから、たれ

人

も、ほめる人がないのだ。じぶん

は、このとほり、うつくしいから、人

が、みんな、あのよーに、ほめるのだ。」

日は、これをきいて、すぐ、くもに

かくれました。すると、うつくしかつた 大き

な にじも、すぐ、きえてしまひました。

だい十五 せみ。

木

じろーは、うめの木のしたで、お

中



もしろいものを
おとうきんに
みつけて、
それを
みせて、

「おとうきん。これはなん
でございますか。
からだは大きなはち
のよーで、あしが、六
ぽん、あります。また、中
はからで、せが、二つ

に、われてゐます。

これはなんでございますか。」

と ききました。

おとうさんは、わらって

「それはせみのぬけがらです。せみ

は、はじめ、土の中で、大きくなり

ます。そして、あつくなる時、土の

中から、でてきて、上のきものを

上

土

ぬぎます。ぬぐるときには、せがわれ
て、そこから、ぬけてでます。人はこ
のきものをせみのぬけがらと
いひます。」

と　いって、をしへてやりました。

じろーは、おもしろがって、せみのぬけが
ら　を　みてゐました。

そのとき、せみが、うめの木のえ

だ
で、みんなさんと、なきました。

だい十六 あきがほ。

かきねに、つるを

まきつけて、

きいた あきがほ、

あか やしろ。

しぼり の はな も

うつくしや。」

あか、しろ、しぼり、

どの はな も、

けふ は、ひる まで、

きいてゐて、

あした、また、きけ。

あきがほや。」

ダイ十七 ウミ。

コノ ヲトコノコ ハ リョーシノ 子 デ

川



ス。

コノ子ハ、イマ、フネニノツテキマス。

ムカフノホーニモ、フネ

ガミエテキマス。

ドツチノフネモ、ウミ

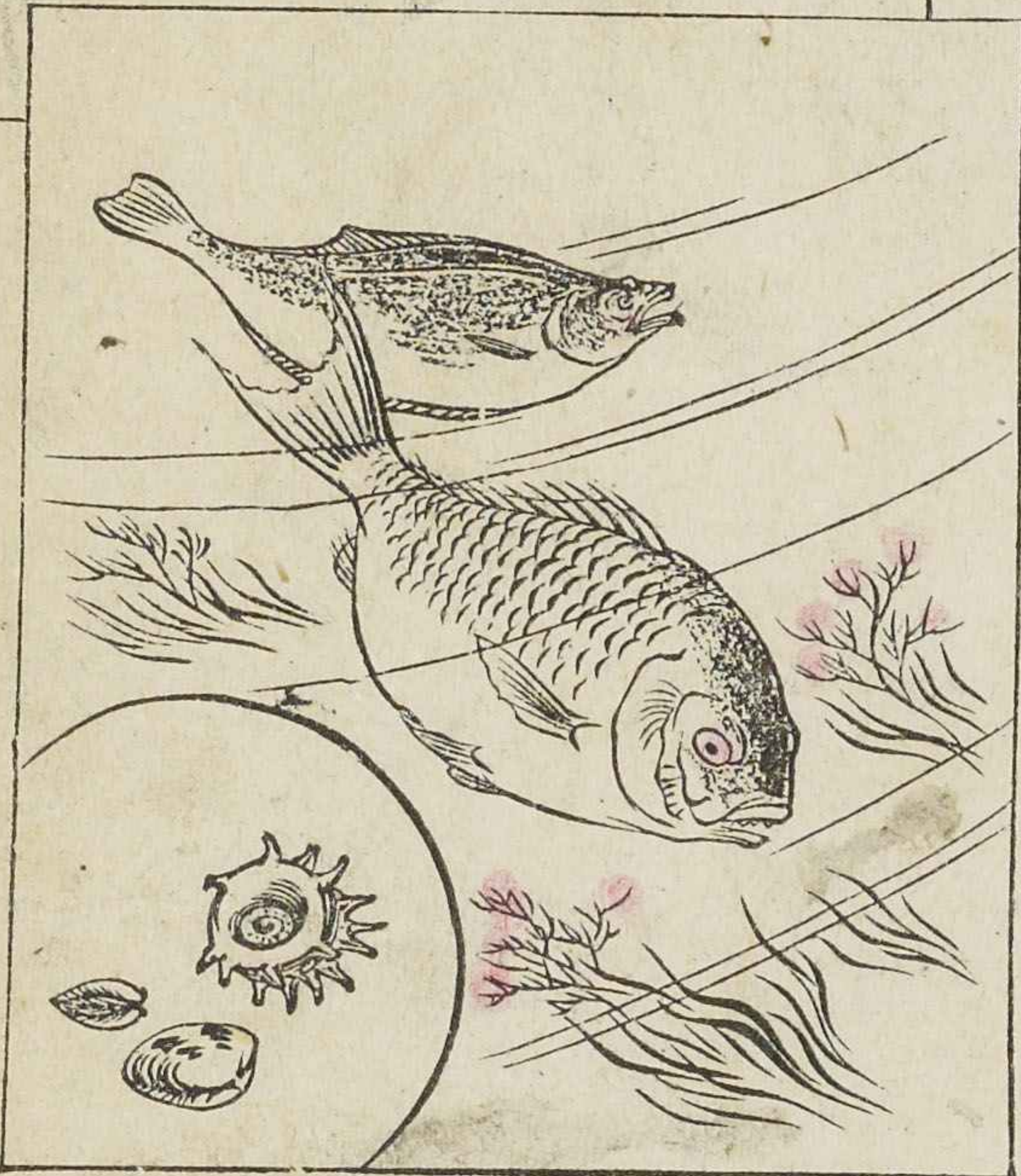
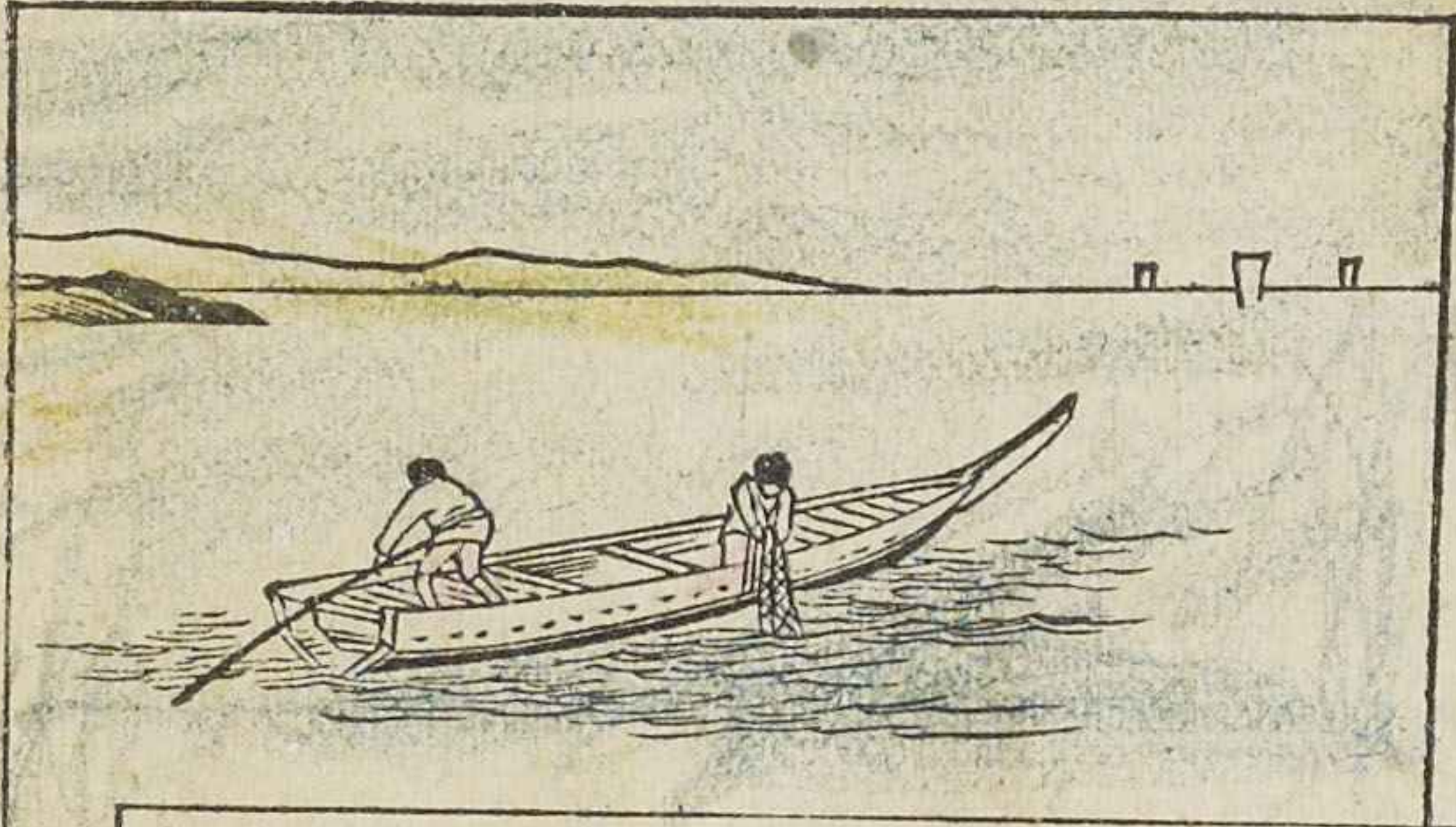
ニ、ウイテキマス。

ウミハ川ヤイケナド

トハチガツテ、タイソー、ヒ

ロクテ、ミヅガアヲアヲトシテキマス。
ウミバタハ、タイテイ、スナジデ、ハダシ
デ、アルイテモ、ヨイココロモチデス。
ハダシデ、アルイテキルト、ナミガヨ
セテキテハ、アシヲアラツテイキマス。
ココデ、キレイナコイシヤカヒガラ
ヲヒロツタリ、カニヲツカマヘタリス
ルコトガデキマス。

水



アツイ トキ ニハ、人ガ、ウミ ニ ハイツ
テ、水 ヲ アビマス。

ウミ ノ 水 ニハ、シホケ ガ アリマス。

ウミ ニハ、タヒ ヤ カレヒ ヤ、ソノ ホ

カ、イロイロナ ウ

ヲ ガ 弁マス。マ

タ、ハマグリ ヤ

サザエヤ、ソノ

ホカ、イロイロナ カヒ モ 耳マス。

だい十八 からす と はまぐり。

ある ひ、うみばた に、からす が、たくき
ん、あつまつてゐました。そして「はまぐりを、
わって、たべよう。」と おもって、くちばしで、
つついてゐました。

はまぐり は、かたく て、なかなか、われま
せんでした。

からす は、とーとー、はまぐりをすてて、
とんでいってしまひました。

しかし、一はだけ は、あと に、のこつてゐ
ました。そして、なに か、かんがへてゐる
よーす でした。

そのうちに、この からす は、はまぐりを
くはへて、たかい ところ まで、とびあがり
ました。そして、そこ から、はまぐりを

下

おとしました。

はまぐりは、下のいはに あたって、
われしました。

からすは、すぐ、おりてきて、そのはまぐ
りのみをたべました。

ダイ十九 ブドー。

マー。ミゴトナ ブドー デハ アリマセン
カ。



コノ ブドーノ ツル ハ、 タ
ローノ オヂイサン ガ、 コド
モノ トキ、 サシキ ニ シタ
ノ デス。
サシキ ト イフ ノ ハ、 エダ
ヲ キツテ、 ソレヲ、 ジメンニ、 サシテオク
ノ デス。 サウ スル ト、 ソレ カラ、 ネ
ガ ハエテキマス。

マタ、コノ タナ モ、タローノ オヂイサ
ン ガ、コシラヘタ ノ デス。

ブドーノ フサ ニハ、ミ ガ、タクサン、
ツイテキマス。

ソシテ、ソノ ミ ガ ジュクスル ト、アヂ
ガ アマク ナリマス。

ミナサン モ、アキ カ ハル カ ニ、ヨイ
ブドーノ ツルノ エダ ラ キツテ、サ

シテオイテゴランナサイ。

だい二十 とけい。

たろー と おつる と が、 とけい の ま

へ で、 はなし を してゐます。

おつる「にいきん。この とけい を みて、 ど

うして、 じかん が わかります か。」

たろー「それは、 はり が 字 を きす の

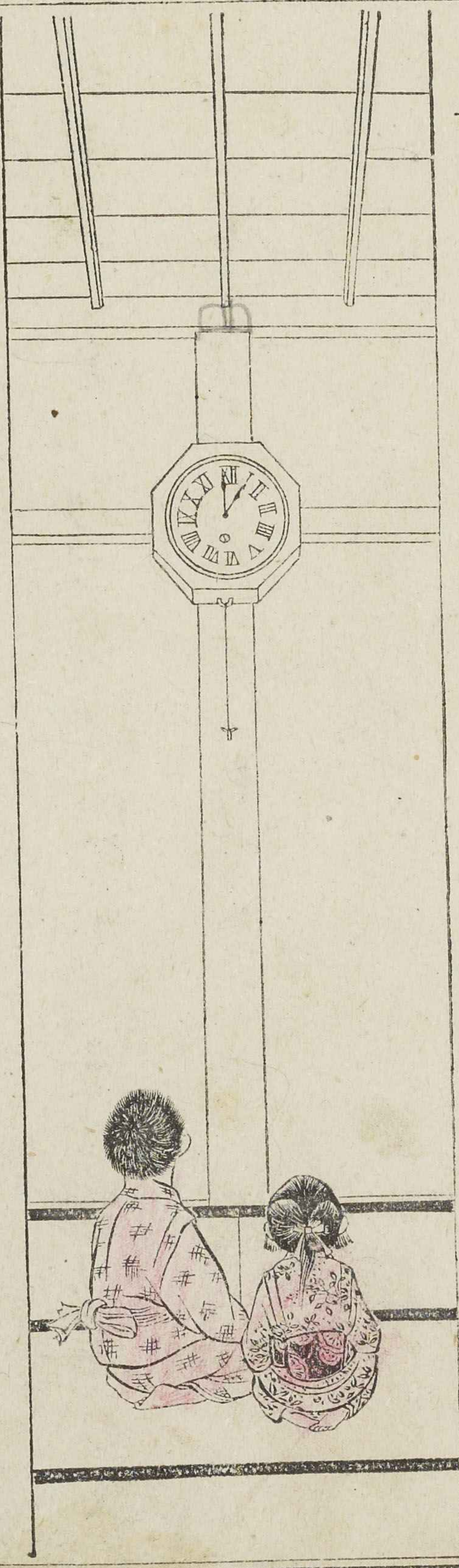
で、 わかる の です。

字

おまへはあの字をしってゐますか。

VII	七	I	一
VIII	八	II	二
IX	九	III	三
X	十	IIII	四
XI	十一	V	五
XII	十二	VI	六

おつる「はい。それはねえきんにならひました。」



たろ「それでは、いまはどの字をししてゐますか。」

おつる「みじかい はり は いち と いふ
字 を きしてゐて、ながい はり は じゆ
ーに と いふ 字 の そば を きして
ゐます。」

たろー「きう です。その みじかい はり が
きす 字 で、なんじ だ か、わかる の
です。いま は、いち と いふ 字 を
きしてゐます から、ーじ です。」

それ。とけいが、一つ、なりました。

ごらん。ながいはりは、ちよーど、じゅー
にといふ字をさしました。

これとおなじよーに、ながいはり

がじゅーにといふ字をさして、

みじかいはりがにといふ字を

させば、二じ、ごとといふ字をさ

せば、五じ、じゅーといふ字を

きせば、十じです。

また、もっと、くはしい じかん は、なが
いはりが ipsis ところをみる と、
わかる の です。」

おつる は、はじめて、とけい の みかた
をしって、たいそし、よろこびました。

とけい が なった。

おきよ、こどもら。もう、よ が あけた。

本

きもの きかへよ。ごはんも できた。」
とけい が なった。

いそげ、こどもら。がっこーへ、いそげ。
つつみ かかへて、おくれん よーに。」

とけい が なった。

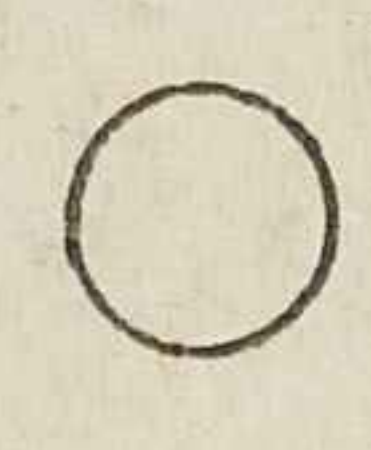
ならへ、こどもら。よく、せい だして。

本 を ひらいて、わきみ を するな。」

とけい が なった。

あそぶ。こどもら。がっこーがひけた。

はやく。かへって。まり。こまもって。」



いろはにほへとちりぬるをわかよたれそ
つねならむうゑのおくやまけふこえてあ
さきゆめみしゑひもせす

をはり。

72422

国立国語研究所



1000605111

明治三十七年一月十三日	明治三十七年一月十日	明治三十六年九月三日	明治三十六年九月一日
翻刻發行	翻刻印刷	發行	印刷

著作權所有

著作兼
發行者

文部省

明治卅七年一月八日
文部省檢査濟

發行所

河原教

湖東村土官

印刷所

印刷者

翻刻者

澤

大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

青木恒三郎

大阪市東區博勞町四丁目貳拾七番屋敷

合資
博進社

東京市小石川區久堅町百八番地

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

日本書籍株式會社

尋常小學讀本三

定價金六錢五厘

敬

行

鄰

湖

世

0. 0

24